

【様式 1 - 1】

野田村 橋梁長寿命化修繕計画 (橋長14.5m以上)

平成31年(2019)年03月 作成
令和4年(2022)年09月 更新

野田村 地域整備課

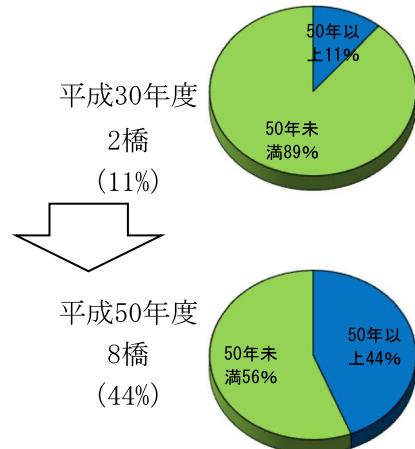
1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

野田村が管理する橋長14.5m以上の橋梁は、平成30年度現在で18橋架設されている。

このうち、建設後50年を経過する橋梁は、全体の11%を占めており、20年後の平成50年には、44%程度に増加する。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の事後保全型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大となることが懸念される。



2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト縮減のためには、従来の事後保全型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

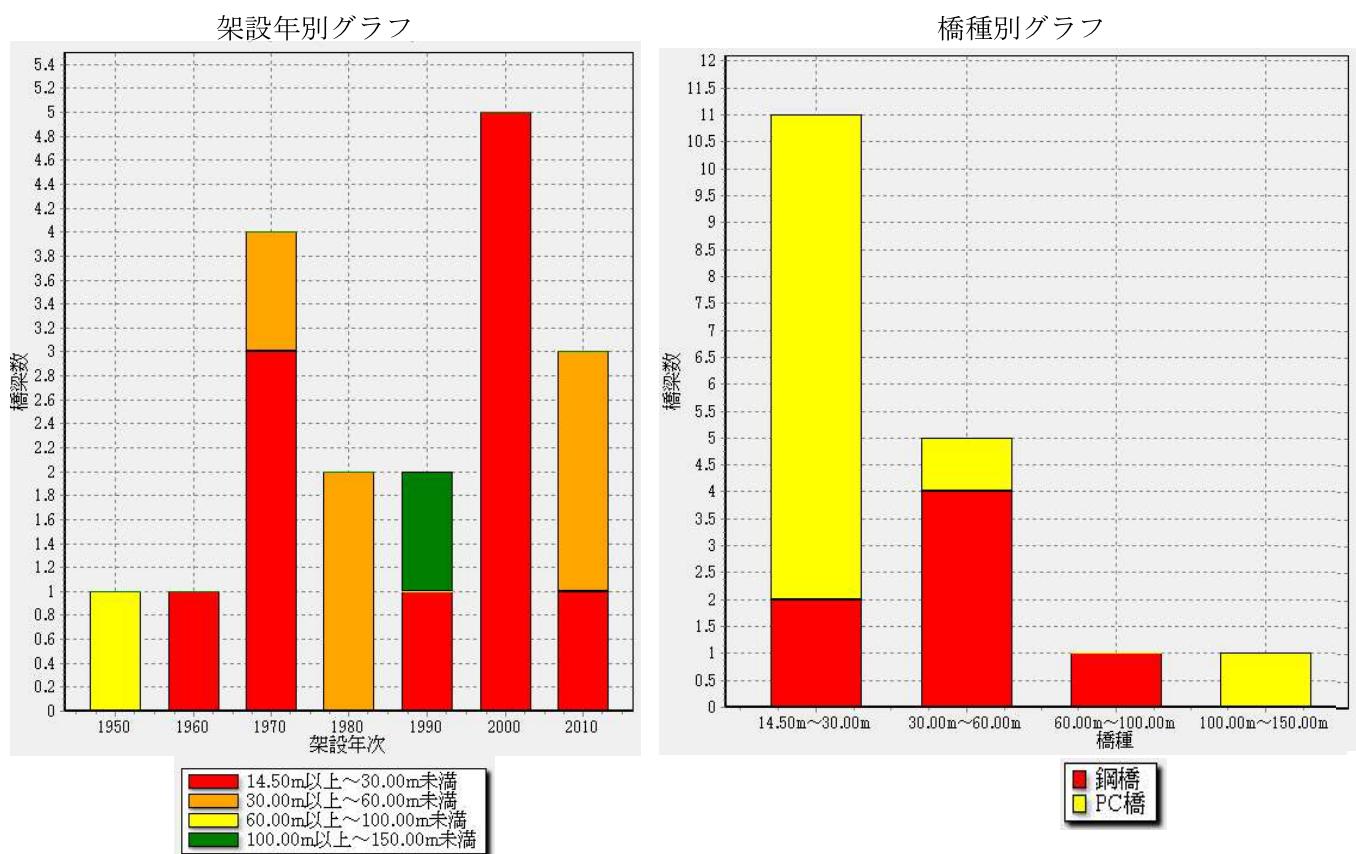
そこで野田村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	村道 1級	村道 2級	村道 その他	合計
全管理橋梁数	6	1	11	18
うち計画の対象橋梁数	6	1	11	18
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち平成30年度計画策定橋梁数	6	1	11	18

長寿命化修繕計画の対象：

- ・橋長14.5m以上の管理橋梁



3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的方針

定期点検（5年に1回）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度の把握に努める。また、点検に際しては「軽微な損傷」や「点検対象部材で補修が必要と判断される損傷」についても記録（損傷図、写真等）を残す。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、定期パトロールや維持修繕などの実施に努める。定期点検の間も目視（可能な範囲で近接）による状況の確認を行う。維持修繕は橋梁の長寿命化につながるため路面清掃、排水施設及び橋座の土砂撤去、小規模な変形・欠損箇所の補修などの実施に努める。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

野田村が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約44%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とする目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。

【様式1-2】

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期

(詳細検討の結果、変更する場合がある)

凡例：  点検を実施すべき時期を示す。

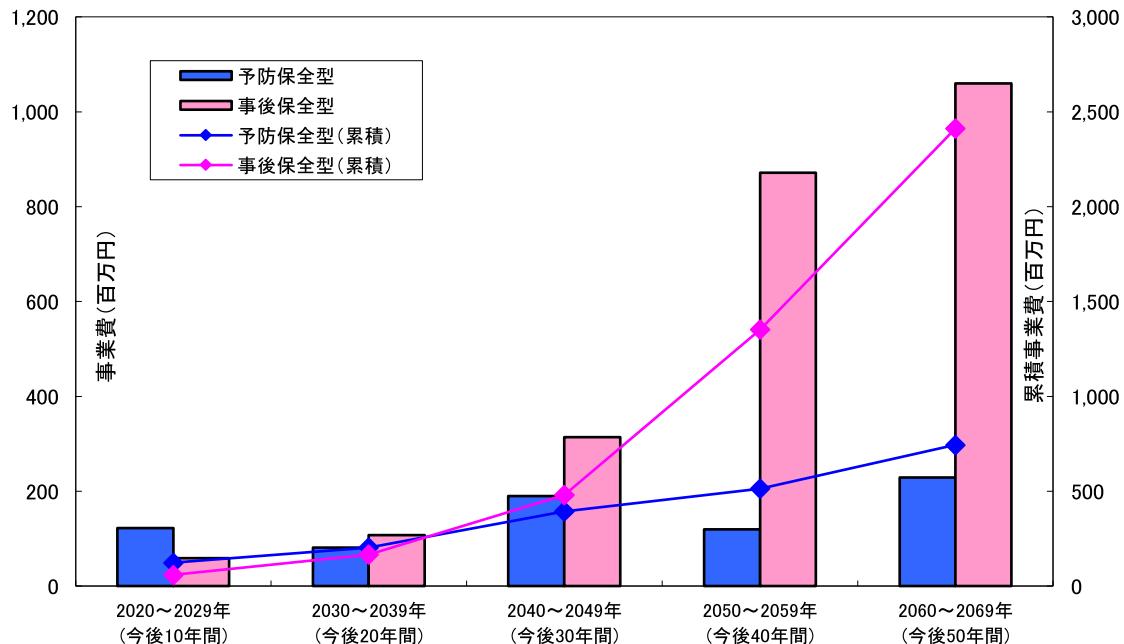
凡例：  対策を実施すべき時期を示す。

橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	対策の内容・時期															
							2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029						
玉川橋	村道	石角山2号線	60.0	1957	61	2018	 下部工 : 断面修復・床版		 主部材 : 1種ケン, 塗装等													
高校通学路橋	村道	高校北線	41.0	1980	38	2017		 主部材 : 1種ケン, 塗装等														
葦畠橋	村道	前浜線	39.1	2014	4	2017			 下部工 : 鋼バーアルベント塗装・支承 : アンカーボルト締め付け等													
泉沢橋	村道	米田中平線	26.0	1993	25	2017			 主桁 : ひびわれ注入等													
三日市場橋	村道	三日市場線	36.0	1975	43	2017			 支承 : アンカーボルト締め付け, 金属溶射等													
玉川上の橋	村道	横小路線	22.8	2003	15	2017				 下部工 : ひびわれ注入等												
玉川みなと橋	村道	横小路線	21.6	2004	14	2017				 下部工 : ひびわれ充填等												
日形井橋	村道	城内二叉線	16.0	1975	43	2017					 下部工 : 断面修復等											
玉川中の橋	村道	横小路2号線	26.0	1970	48	2017					 下部工 : 断面修復等											
玉川千仮橋	村道	沢山根井線	108.0	1995	23	2018						 主桁 : ひびわれ注入・床版 : 断面修復										
日形井橋	村道	大葛日形井線	18.4	1969	49	2017							 主部材・支承 : 1種ケン, 塗装									
玉川下の橋	村道	館公園線	27.0	1971	47	2017								 下部工 : 断面修復等								
松川橋	村道	松川線	31.0	1981	37	2017																
日向下橋	村道	日向下3号線	18.5	2002	16	2017										 地覆 : 断面修復等						
コウラゲ橋	村道	コウラゲ線	36.8	2014	4	2017																
地蔵平橋	村道	明内泉沢線	27.8	2008	10	2017																
たてのばし	村道	明内泉沢線	20.7	2004	14	2016																
下米田橋	村道	米田中央線	15.0	2012	6	2017																

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する18橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が24億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が7.5億円となり、コスト縮減効果は16.5億円となる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。



7. 集約化・撤去

令和10年度までに、管理する46橋（橋長14.5m以上は18橋）のうち約1割程度について、施設の撤去に伴う迂回路整備や、機能縮小、複数施設の集約化などの検討を、社会経済情勢や施設の利用状況の変化、施設周辺の道路の整備状況、点検・修繕・更新等に係る中長期的な費用縮減を考慮し実施することを目標とする。

8. 新技術の活用

令和5年度までに、管理する46橋（橋長14.5m以上は18橋）全てについて、修繕や点検等に係る新技術等の活用の検討を行うとともに、約1割程度の橋梁で費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術等を活用することを目標とする。

9. 費用縮減

令和10年度までに、管理する46橋（橋長14.5m以上は18橋）のうち、1巡目点検において従来技術を使用した橋梁に対しては新技術等を活用した点検を実施することで、費用を約1割程度縮減することを目標とする。

10. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

野田村 地域整備課 tel : 0194-78-2111

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

岩手大学 理工学部 大西 弘志 准教授

岩手大学 理工学部 小山田 哲也 准教授

